会津地方 栽培基準

美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要！

福島県オリジナル水稲品種「福、笑い」栽培暦

【栽培地帯】会津地方の平坦地域（標高300m以下）

食味・品質基準
- 玄米タンパク質含有率…6.4%(水分15%換算)以下
- 調製基準……1.9mm
- 等級基準……1等

福島県農林水産部 水田畑作課

生育

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月	
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

- 移植期：コシヒカリに比べ、苗の丈はやや短く、葉色は同程度
- 分げつ期：葉色はひとめぼれとコシヒカリの中間
- 幼穂形成期
- 減数分裂期
- 出穂期：8/6頃（農業総合センター 会津地域研究所の場合）コシヒカリより1日程度遅い
- 成熟期：稈長はコシヒカリより短く、穂は止葉に隠れる成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する

主な作業

塩水選 浸種 催芽／播種／育苗管理／田植え／耕起／代かき／除草剤散布／土壌改良資材 基肥施用／箱施薬散布（殺虫・殺菌）

※穂肥目安の1週間前頃から幼穂長を確認する

穂いもち防除／カメムシ防除／穂肥 7/14頃（幼穂形成期）（農業総合センター会津地域研究所の場合）

※時期等は栽培上の要点を参照

収穫 乾燥 調製

品種の特徴

コシヒカリと比較して…
- 収量、品質がやや優る。
- 玄米千粒重が重い。
- 耐倒伏性が優る。
- 白未熟粒の発生が少ない。
- 味度値が高い。

栽培のポイント

基肥窒素を制限し、葉色に応じて穂肥を適正に施用することで、籾数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

水管理：活着まで深水／浅水管理で分げつ促進／中干し／間断かんがい（低温時深水管理）／出穂期花水／間断かんがい／落水は出穂後30日頃

栽培上の要点

土づくり
- 堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
- 鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

種子予措
- 必ず塩水選（比重1.13）を実施する。
- 種子消毒は薬剤により実施する。
- 水温を確認して、十分に浸種を行う。

移植
- **栽植密度は条間30cm×株間18～22cm（50～60株/坪）**とする。
- 風のない暖かい日に移植する。
- 活着までは深水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。
- **田植え適期／5月中旬**（登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない）

病害虫・雑草防除
- 「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、防除する。

★施肥体系 食味向上のための施肥管理

❶窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
- 肥料の銘柄は地域慣行に準ずる。
- 基肥一発肥料は使用しない。

❷穂肥は**幼穂形成期に施用**する。
穂肥の実施は、必ず葉色（SPAD値等）を確認して判断する。

❸遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

中干し
- 有効分げつ（≒穂数）確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- （茎数の目安）60株/坪の場合　約20～22本/株
  50株/坪の場合　約24～26本/株
- 幼穂形成期までには、中干しを終了する。

低温時の水管理
- 幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

出穂期以降の水管理
- 高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。
- 落水は出穂30日後を目安とし、早期落水はしない。

カメムシ防除
- 畦畔の草刈り
  出穂10日前までに実施する（周囲に出穂の早い品種がある場合はそれに合わせる）。
  出穂後は草刈りを行わない。

〈農薬による防除の例〉
- 粉剤、液剤（散布剤）による防除
  1回目：出穂期の7～10日後頃（乳熟期）
  2回目：その7日後に散布
- 粒剤による防除
  穂揃期～出穂期10日後頃（乳熟期）に湛水状態で散布する。**その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行う。**

刈取り時期
- 籾の黄化率を必ず確認して、刈取りの判断を行う。**黄化率85%以上を**目安とする。
- 刈取時期の積算気温の目安…1000～1200℃
- 刈取り適期に達した後は、速やかに刈り取る。

★生育指標【会津地方】

時期	項目	指標値
成熟期	玄米タンパク質(%)	6.4以下
	籾数(万粒／㎡)	**3.0～3.2**
	登熟歩合(%)	90以上
	収量(kg/10a)	600～660
	穂数(本／㎡)	350～400
幼穂形成期	**葉色(SPAD502値)**	**35～38**
	茎数(本／㎡)	500～550
	草丈(cm)	70以下

乾燥・調製
- 乾燥速度は毎時0.8%以下を目安に行う。
- 高水分籾は2段階乾燥を行い乾燥ムラを防ぐ。
- 選別機の篩い目は、1.9mmで調製する。

◎随時生育調査や栽培に関する聞き取りをさせていただくことがあります。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

栽培に関する問い合わせ・相談先
●会津農林事務所農業振興普及部 ☎0242-29-5306　●喜多方農業普及所 ☎0241-24-5744　●会津坂下農業普及所 ☎0242-83-2113

中通り 栽培基準

美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要！

福島県オリジナル水稲品種「福、笑い」栽培暦

【栽培地帯】中通りの平坦地域（標高300m以下）

食味・品質基準
- 玄米タンパク質含有率…6.4%(水分15%換算)以下
- 調製基準……1.9mm
- 等級基準……1等

福島県農林水産部 水田畑作課

生育

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月	
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

- 移植期：コシヒカリに比べ、苗の丈はやや短く、葉色は同程度
- 分げつ期：葉色はひとめぼれとコシヒカリの中間
- 幼穂形成期
- 減数分裂期
- 出穂期：8/12頃（農業総合センター本部の場合）コシヒカリより1日程度遅い
- 成熟期：稈長はコシヒカリより短く、穂は止葉に隠れる成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する

主な作業

塩水選 浸種 催芽／播種／育苗管理／田植え／耕起／代かき／除草剤散布／土壌改良資材 基肥施用／箱施薬散布（殺虫・殺菌）

※穂肥目安の1週間前頃から幼穂長を確認する

穂いもち防除／カメムシ防除／穂肥 7/23頃（幼穂形成期）（農業総合センター本部の場合）

※時期等は栽培上の要点を参照

収穫 乾燥 調製

品種の特徴

コシヒカリと比較して…
- 収量、品質がやや優る。
- 玄米千粒重が重い。
- 耐倒伏性が優る。
- 白未熟粒の発生が少ない。
- 味度値が高い。

栽培のポイント

基肥窒素を制限し、葉色に応じて穂肥を適正に施用することで、籾数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

水管理：活着まで深水／浅水管理で分げつ促進／中干し／間断かんがい（低温時深水管理）／出穂期花水／間断かんがい／落水は出穂後30日頃

栽培上の要点

土づくり
- 堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
- 鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

種子予措
- 必ず塩水選（比重1.13）を実施する。
- 種子消毒は薬剤により実施する。
- 水温を確認して、十分に浸種を行う。

移植
- **栽植密度は条間30cm×株間18～22cm（50～60株/坪）**とする。
- 風のない暖かい日に移植する。
- 活着までは深水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。
- **田植え適期／5月中旬**（登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない）

病害虫・雑草防除
- 「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、防除する。

★施肥体系 食味向上のための施肥管理

❶窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
- 肥料の銘柄は地域慣行に準ずる。
- 基肥一発肥料は使用しない。

❷穂肥は**幼穂形成期に施用**する。
穂肥の実施は、必ず葉色（SPAD値等）を確認して判断する。

❸遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

中干し
- 有効分げつ（≒穂数）確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- （茎数の目安）60株/坪の場合　約20～22本/株
  50株/坪の場合　約24～26本/株
- 幼穂形成期までには、中干しを終了する。

低温時の水管理
- 幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

出穂期以降の水管理
- 高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。
- 落水は出穂30日後を目安とし、早期落水はしない。

カメムシ防除
- 畦畔の草刈り
  出穂10日前までに実施する（周囲に出穂の早い品種がある場合はそれに合わせる）。
  出穂後は草刈りを行わない。

〈農薬による防除の例〉
- 粉剤、液剤（散布剤）による防除
  1回目：出穂期の7～10日後頃（乳熟期）
  2回目：その7日後に散布
- 粒剤による防除
  穂揃期～出穂期10日後頃（乳熟期）に湛水状態で散布する。**その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行う。**

刈取り時期
- 籾の黄化率を必ず確認して、刈取りの判断を行う。**黄化率85%以上を**目安とする。
- 刈取時期の積算気温の目安…1050～1200℃
- 刈取り適期に達した後は、速やかに刈り取る。

★生育指標【中通り】

時期	項目	指標値
成熟期	玄米タンパク質(%)	6.4以下
	籾数(万粒／㎡)	**2.8～3.0**
	登熟歩合(%)	85以上
	収量(kg/10a)	550～600
	穂数(本／㎡)	350～400
幼穂形成期	**葉色(SPAD502値)**	**35以下**
	茎数(本／㎡)	500～550
	草丈(cm)	70以下

乾燥・調製
- 乾燥速度は毎時0.8%以下を目安に行う。
- 高水分籾は2段階乾燥を行い乾燥ムラを防ぐ。
- 選別機の篩い目は、1.9mmで調製する。

◎随時生育調査や栽培に関する聞き取りをさせていただくことがあります。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

栽培に関する問い合わせ・相談先
●県北農林事務所農業振興普及部 ☎024-521-2608　●伊達農業普及所 ☎024-575-3181　●安達農業普及所 ☎0243-22-1127
●県中農林事務所農業振興普及部 ☎024-935-1310　●須賀川農業普及所 ☎0248-75-2180　●県南農林事務所農業振興普及部 ☎0248-23-1562

浜通り 栽培基準

美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要！

福島県オリジナル水稲品種「福、笑い」栽培暦

【栽培地帯】浜通りの平坦地域（標高300m以下）

食味・品質基準
- 玄米タンパク質含有率…6.4%(水分15%換算)以下
- 調製基準……1.9mm
- 等級基準……1等

福島県農林水産部 水田畑作課

生育

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月	
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

- 移植期：コシヒカリに比べ、苗の丈はやや短く、葉色は同程度
- 分げつ期：葉色はひとめぼれとコシヒカリの中間
- 幼穂形成期
- 減数分裂期
- 出穂期：8/12頃（農業総合センター 浜地域研究所の場合）コシヒカリより3日程度遅い
- 成熟期：稈長はコシヒカリより短く、穂は止葉に隠れる成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する

主な作業

塩水選 浸種 催芽／播種／育苗管理／田植え／耕起／代かき／除草剤散布／土壌改良資材 基肥施用／箱施薬散布（殺虫・殺菌）

※穂肥目安の1週間前頃から幼穂長を確認する

穂いもち防除／カメムシ防除／穂肥 7/16頃（幼穂形成期）（農業総合センター浜地域研究所の場合）

※時期等は栽培上の要点を参照

収穫 乾燥 調製

品種の特徴

コシヒカリと比較して…
- 収量、品質がやや優る。
- 玄米千粒重が重い。
- 耐倒伏性が優る。
- 白未熟粒の発生が少ない。
- 味度値が高い。

栽培のポイント

基肥窒素を制限し、葉色に応じて穂肥を適正に施用することで、籾数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

水管理：活着まで深水／浅水管理で分げつ促進／中干し／間断かんがい（低温時深水管理）／出穂期花水／間断かんがい／落水は出穂後30日頃

栽培上の要点

土づくり
- 堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
- 鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

種子予措
- 必ず塩水選（比重1.13）を実施する。
- 種子消毒は薬剤により実施する。
- 水温を確認して、十分に浸種を行う。

移植
- **栽植密度は条間30cm×株間18cm(60株/坪)**とする。
- 風のない暖かい日に移植する。
- 活着までは深水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。
- **田植え適期／5月中旬**（登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない）

病害虫・雑草防除
- 「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、防除する。

★施肥体系 食味向上のための施肥管理

❶窒素施肥量
基肥4kg/10a+穂肥2kg/10aを基本とする。
- 肥料の銘柄は地域慣行に準ずる。
- 基肥一発肥料は使用しない。

❷穂肥は**幼穂形成期に施用**する。
穂肥の実施は、必ず葉色（SPAD値等）を確認して判断する。

❸遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

中干し
- 有効分げつ（≒穂数）確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
- （茎数の目安）60株/坪の場合　約20～23本/株
- 幼穂形成期までには、中干しを終了する。

低温時の水管理
- 幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

出穂期以降の水管理
- 高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。
- 落水は出穂30日後を目安とし、早期落水はしない。

カメムシ防除
- 畦畔の草刈り
  出穂10日前までに実施する（周囲に出穂の早い品種がある場合はそれに合わせる）。
  出穂後は草刈りを行わない。

〈農薬による防除の例〉
- 粉剤、液剤（散布剤）による防除
  1回目：出穂期の7～10日後頃（乳熟期）
  ※大型カメムシが優占する場合は出穂期～穂揃期(出穂4日後)
  2回目：その7日後に散布
- 粒剤による防除
  穂揃期～出穂期10日後頃（乳熟期）に湛水状態で散布する。**その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行う。**

刈取り時期
- 籾の黄化率を必ず確認して、刈取りの判断を行う。**黄化率85%以上を**目安とする。
- 刈取時期の積算気温の目安…1100～1200℃
- 刈取り適期に達した後は、速やかに刈り取る。

★生育指標【浜通り】

時期	項目	指標値
成熟期	玄米タンパク質(%)	6.4以下
	籾数(万粒／㎡)	**2.8～3.0**
	登熟歩合(%)	85以上
	収量(kg/10a)	500～550
	穂数(本／㎡)	370～410
幼穂形成期	**葉色(SPAD502値)**	**33以下**
	茎数(本／㎡)	520～570
	草丈(cm)	70以下

乾燥・調製
- 乾燥速度は毎時0.8%以下を目安に行う。
- 高水分籾は2段階乾燥を行い乾燥ムラを防ぐ。
- 選別機の篩い目は、1.9mmで調製する。

◎随時生育調査や栽培に関する聞き取りをさせていただくことがあります。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

栽培に関する問い合わせ・相談先
●相双農林事務所農業振興普及部 ☎0244-26-1151　●双葉農業普及所 ☎TEL 0240-23-6473　●いわき農林事務所農業振興普及部 ☎0246-24-6161